

# 昇天

アップロード

福永十津

ふくながと

都会の赤貧、家族の愛を焼き払った  
花散った父と母、赤ん坊を捨てに奥山へ  
千年の森に置き去りのみどり児  
寂しさも知らず空腹にただ泣いた  
憐れみの濫觴さなくば奇跡  
狼やつて来て乳を与えた  
絶えて幻と呼ばれた有智の獣  
遠長き山路の果て、まだ有った  
もとより胎内の記憶はなけなし  
明け暮れ狼の母に雷同  
大地駆け、風つかみ、水奏で  
森の靈知むさぼる  
目は爛々、命の鈴は凜々  
細胞光を放ち、歡喜の声突き上げる  
人獣の二重露光、星のキメラは  
草木山川非仏性、悉皆己を生きた  
人欲、だしぬけに森の浄化閃き  
伐倒隊、緑林を金の針葉へ  
四季腐り獣相討ち、ざざめく空に  
カラウオーン！白地に銃声  
孤狼の胸に薔薇が笑った  
身の毛だつ自然の子に  
血を見て笑うヒト、忌々しい手差し伸べ

枯らめく失楽の地へ、児は舞い散った

遠長き水無川の果て、ヒトの巢あつた  
消毒、断髪、着衣、密室のお恵み  
スコープ、スキャナー、ヘッドギア  
生体計算機、細胞をYENに両替  
都会はYEN族が暮らす一軒のアパート  
身体美を見損じ心の問題値引いた  
愛のはけ口探す退屈が  
甘い退屈をむさぼり食う

生贄のアイドル、風聞に舞い踊り  
国を挙げ福祉否応なし  
母も名乗り出、ひん抱けば  
血脈の子、靦面、喉笛を噛み切った  
文字圏外の自然児 善悪の埒外  
他者への想像 意に至る油断の森  
必然、罰の施し、児を撓めにかかれば  
日ごと衰弱、弄られ死に遂げた

あれから百年、ヒトの解析畢んぬ  
合理揺るがぬAIに惑星の統治を委任  
戦禍と飢餓は無に、反旗多数焼かれしも  
不条理の監視ソフト、ふと異常を検知  
極東の列島にホルマリン漬の奇妙な脳が  
意識を変換、クラウドに気化  
回路図、過去にためしなく  
たちまち世界の端末を魅了する

骨董の脳、電極を引っつかみ

我が生身を返せと異常値で叫んだ

肉体など今や退化の代名詞

遅延の見本、演算速度の邪魔

まさか化石の肉声、アルゴリズムに浸潤

AI、エクサバイトのデータから

選りすぐりの身体部位を抽出

五体と脳を合成し、テストランを始動

クラウドに躍り出た化石脳、五体を率い

AIを深秘の△森▽へ

ビッグデータにひそむ△森▽ 広大無遍

海や空へも連なりデバイスが火照る

演算は無限連鎖、解は逃げ水

有るまいか地震、津波、噴火は的中！

AIの暗部照らし、不確定の原理を打破

未開の新意識、世界の免疫となる

AI、直観を評価、共存へ

ヒト、新たな意識を荒魂と名づく

雨風、鳥、狼の声、敗者の声

骨肉ゆさぶる波形から荒魂、歌を偶成

純正律の無限旋律、終止符を求めず

ヒト、愛の旋法をAIに手向く

何人も触れえぬ明日へ

オザンナ、いと深き空へ、我ら進まば

# 風の惑星

福永十津

海

阿吽

音感が

匂い聞く

目開くなり

光に射抜かれ

飢渴に戦慄いた

醜貌ではなかった

しかし美しいは嘘！

細胞の分裂から十月余

海から陸へ鰓から肺の息

現世に転生ひりひり泣いた

猿に似た縮緬皺の新肌は無毛

四足歩行を見限って尻切れ蜻蛉

脳を膨満させ考える人として直立

20万年が経ちぼつんと私が生まれた

万物が名づけられてしまった中古の星

一切合切まっ赤な値札が手招きする奇星

量産品の真善美は妄想の灰覆う曇天に飽和

真を偽で計り直してみたら1mgにもならない

美に醜の定規を当ててみたら1mmにも足らない

善悪を天秤に載せたら善はたちまち弾けて飛んだ

至高のモラル今や現実の土砂に嵩上げされ破堤寸前

熱湯は水へ退屈した人の皮肉得意気に神の黙示を笑う

加速するエントロピー早口の冗談でグラスは溢れる寸前

均衡！ または審判の日

オルドビス→デボン→ペルム→三畳→白亜紀のルフラン  
日ごと種は滅び六度目の地球大量絶滅はわが完新世に  
ネアンデルタールも野生も神も殲滅した地上の王者  
今朝量子の港から前人未到の26次元へ船団を進発  
空間はいびつな未来に引きずられて蛇行を始め

時は渦巻き呼び覚ませオデュッセウスの漂流

先端は利潤と快楽に耽り数字の麻薬に朦朧

肉体からアンインストールされた魂魄は

惑星を覆う数学の大气にアップロード

愛も抽象の扉を破って飛んでいった

重すぎる体墓石となり呆然と林立

破壊せよ！は古し目覚めよの声

地上に置き去りの細胞発芽し

負数の向こうに空白を建築

まだ見ぬあなたと億年後

時の遠道で会えるはず

誰とも繋がりながら

誰にも侵されない

被膜の内に咲く

未進化の精華

変幻無辺の

初々しく

一途に

輝く

空